

紙の本は必要

読書体験としてはやっぱり紙本が何段も上、と感じる。
電子書籍はどうしても流し読みしてしまう。頭に入りにくい。

主な提案内容

1. 紙本 + 電子書籍利用権1年分
2. 書店での電子書籍購入で割引
3. 書店向け書籍電子見本の公開

消費者側

- **紙本 + 電子書籍の権利**（有効期間：紙本購入時に登録。1年で消滅；p2に解説）
- 紙本返却→電子書籍は半永久的に使用可能
- 紙本所有→電子書籍の定価の3割程度で権利購入
- **書店での電子書籍購入→割引**

紙本回収のメリット・デメリット

紙本が古本の流通ルートに乗るのが遅くなる、量が減る（紙本がないと少なくとも1年後は電本が無効になる）。
なんらかの処分が必要になる。ただし版元等が古本屋に売却も可能。

本をプレゼントする習慣を仕掛ける

欧米では本をプレゼントする習慣（クリスマスとかサン・ジョルディの日とか）があるが、自分が気に入った本ではなく、**相手が欲しい本をあげる**らしい（子供の誕生日プレゼントやクリスマスプレゼントと一緒にだ）。
クリスマスの時期に本の需要が急増（英国で年間の40%とか）

書店側（足を運んでもらう）

- **本屋が独自の品揃えを可能とするための電子見本**（当面は出版社のサイトにアクセス）→専門端末もしくは登録端末でほぼすべての書籍の内容に書店がアクセスできる；買取も有効に活用できる；返本の削減 → 質の確保
- 文庫目録→電子目録（書店店頭で中身の一部を確認）：iPadなどで低コストで整備可能。
- 書店(員)reviewer（紹介書店にも還元）
- **書店での電子書籍購入→書店の売り上げ**

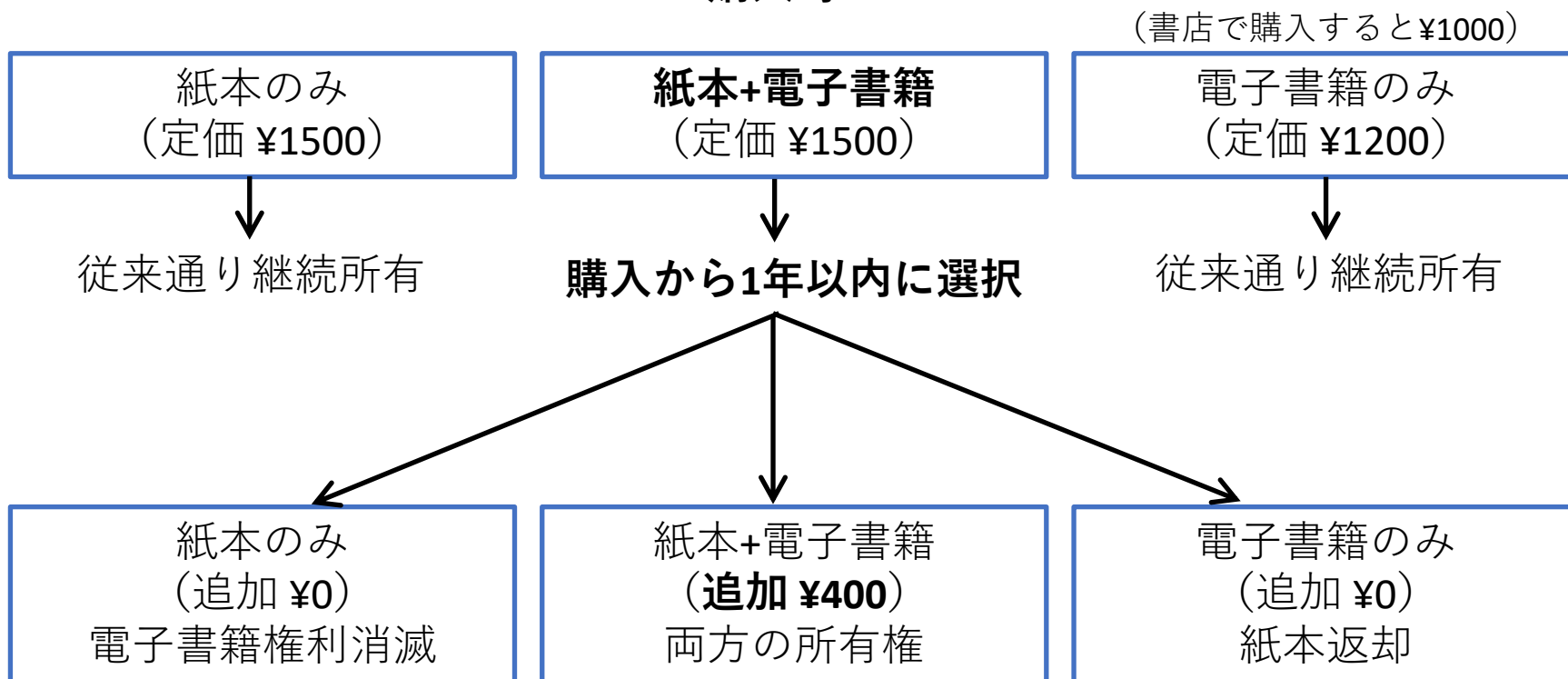
本はハズレを減らすことが大事（質の確保）

想定と違う趣旨であることは許せるが、質が低いのはダメ。
質の低い本に当たると、次に本を買うことを躊躇してしまう。
そしてそれが連続すると、本を買うのが嫌になってくるから。
探している本がなかったり、内容が若干違っていても（それも出会いだ）、この本屋に行けば質は確保されている——というのは大事ではないか。

紙書籍と電子書籍のシームレスな関係
紙で読んだところを電子で引き継げるとか；
技術的に可能？ 電子葉？

消費者の選択肢

購入時



特徴

購入から1年は、スマホやタブレットなどでも読める。家で紙本、外や風呂では電子と使い分け可能。外で読むときだけ電子派。

特徴

購入1年以降も手元に両方あるため、モビリティや検索、書き込みなどの電子書籍の長所を継続して利用できる。本棚に好きな本がある。

特徴

初回読書時は紙本がいい派。紙本として所有する価値がないと判断した場合。断捨離派。

課題等：紙本と電子書籍は何らかのIDで紐付け。紙本に安価なICチップのタグなどを埋め込めると良い。返却本の流通。